

# 13人の議員が市政を問う 一般質問

- 1 竹原真理子 「みんなにやさしい避難所運営について問う」…P12
- 2 市原 正 「市職員の若年層退職と働き方改革を」…P13
- 3 中川 文久 「防災ハザードマップの改定と避難所標識・看板の設置を」…P13
- 4 佐藤 和宏 「持続可能な多文化共生の実現を」…P14
- 5 竹原 祐一 「区未加入市民に対し、広報誌の無料配布を」…P14
- 6 杉谷 保信 「G I G Aスクール構想と対策は」…P15
- 7 五嶋 義行 「農村公園あびか陸上競技場の日本陸上競技連盟の公認は」…P15
- 8 園田 浩文 「小・中学校教員不足の現状は」…P16
- 9 佐藤 菊男 「波野高原やすらぎ交流館改修は」…P16
- 10 古木 孝宏 「公民館設備、初盆名簿、河川改修等を問う」…P17
- 11 菊池 勝秀 「買い物困難者等の解消に向けた『地域おこし協力隊』の活用を」…P17
- 12 大倉 幸也 「阿蘇市ふるさと納税の取組みは」…P18
- 13 児玉 正孝 「阿蘇駅周辺における今後の展望は」…P18

## みんなにやさしい避難所運営について問う



竹原 真理子

**竹原** 熊本地震では、自衛隊や消防、警察、関係機関の支援を受けたが南海トラフ地震で想定されているような大規模な災害の場合、早期の公助は期待できない。そのような時市民一人ひとりが、自分の命は自分で守る自助、家族・親戚・地域の人の共助が大事であるが、市はどのような取組みをしているか。

**市原 防災情報課長** 対策として普段から地域でコミュニケーションを取って、市民参加型のマイタイムラインの作成、防災アプリの説明等の防災講座、防災士との連携、防災活動の体制づくりを推進したいと考えています。

**竹原** 熊本地震時の避難所ではたくさんの方が狭い空間で共同生活を強いられ、特に女性が声に出しづらい部分があった。プライバシーの保護やスペースの確保が大事で、多感な時期のお子さん等の更衣室、授乳室の設置など、女性に配慮した対応を検討されているか。

### 防災情報課長

備蓄品の中には

プライベート空間を確保する簡易型テントや簡易トイレ、その排泄物を自動で個包装できる機械を昨年導入し、食料品やミルク・衛生用品等を備蓄しています。

**竹原** 避難所では、女性が気軽に相談できる職員や女性防災士などの運営スタッフの配置が必要では。

**防災情報課長** 防災計画では、長期の避難が必要な場合、女性職員支援機関、ボランティアを含め配置することとしております。市内在住の防災士は現在35名で、女性の方もいらっしゃると思いますので、今後、防災士との連携も含めて検討していきます。



災害時の避難所

# 市職員の若年層退職と働き方改革を



市原 正

**市原** ここ数年若年層の市職員の退職が目立っているが、状況の説明を。

**和田総務課長** 若年層の短期間で退職は、全国的な課題となっております。公務員離れが広がっています。阿蘇市においても令和3年度に4人令和4年度に1人、本年度は、現時点で2人の若手職員が離職し、突然の退職で公務遂行に支障をきたしています。

**市原** その様な状況の中で、市職員の働き方改革として、どの様な対策を行っているのか。

**総務課長** 現時点で残業時間の上限を超えて過重労働と言われるケースはありませんが、若年層の公務員離れを防ぐため、有給休暇の取得をしやすくするなど、快適で働き甲斐のある職場づくりに努めています。

## 市内小中学校の先生不足への対応は

**市原** 最近保護者の方々から、学校の先生が不足しているのではと心配する声があがっている。阿蘇市内

の小中学校の現状は。

**藤井教育課長** 9月1日現在、年度途中の育休などあり、9名が不足している状況です。

**市原** 9名の不足は学校現場では大きな問題と思うがその対策は。また、文科省が教員の業務支援員増員を打ち出しているが、阿蘇市の取組みについて、教育長の考えは。

**坂梨教育長** 教員が不足していることで、学校内で様々な課題が起きています。市では退職された先生に非常勤での勤務を依頼してスポット的対応を行っています。業務支援員は現在4名ですが、増員を県にお願いしたいと思っています。



小学校の授業

# 防災ハザードマップの改定と避難所標識・看板の設置を



中川 文久

**中川** 3年半経過している防災ハザードマップ改訂版の必要性は。

**市原防災情報課長** 今見直しを進めています。県において砂防事業等の調査確認中で、調査終了後に結果の公表、地元説明会、市への意見聴取を経て、区域の見直し、公表となりその後改訂版を作成したいと考えています。

**中川** 避難所の標識・看板を設置して市民の避難意識を高めては。

**防災情報課長** 市では優しいまちづくりを進めていますので、ピクトグラム（看板等）は必要と考え、他の自治体の状況を確認し、検討していきます。

## 阿蘇神社楼門復旧記念イベントについて

**中川** 復興という意味で、市民の皆さんの参加やPRが大事になってくるが、その内容は。

**石松まちづくり課長** 地元・民間が主体となって、阿蘇神社前の中央駐車場をメイン会場にちようちん千

# 避難所標識・看板の設置を

個を目標に飾って、お客様を迎えるとした内容となっております。周知等については、区長会役員会のご理解頂きチラシを区長回覧で配布します。

**中川** 駐車場は足りるのか。

**まちづくり課長** 大勢の人を集めるような企画になった場合、公共施設の他に近隣施設をお借りして確保したいと考えています。



令和2年4月発行  
防災ハザードマップ



標識イメージ

④「ピクトグラム」とは、人の形などを用いて、誰にでも情報を伝えられるように簡略化されたデザインのこと。

# 持続可能な多文化共生の実現を



佐藤 和宏

**佐藤** 新型コロナウイルス感染症の5類への移行やTSMCの進出もあり、市内では多くの外国人観光客や在住外国人が増加傾向にある。どちらも増えれば市の経済を支える事になるが、市の受け入れ態勢が充実していなければ住民の不満だけでなく、外国人の満足度の低下をもたらす事になる。持続可能な多文化共生に向けた各課の取り組みは。

**秦観光課長** 外国人観光客の入込み状況は、熊本地震前と比較して9割まで回復しています。今後、中国からの入込みが本格化すると、地震前よりも増加することが予測されます。また、海外からの人気観光スポットは依然として阿蘇山です。今後火口の新見学エリアEゾーンを慎重に運用しながら、TSMCが進出する菊陽町周辺、諸外国に向けたPR活動、多言語案内の強化を進めていきます。また、阿蘇の交通利便性を高めるため、熊本県などとも連携しながら、公共交通を利用した二次交通の実証実験等にも取り組みます。

**石松まちづくり課長** 在住外国人との多文化共生に向けた取組みとして、昨年2月に阿蘇市多文化共生連絡協議会を設立し、外国人居住者の孤立予防や生活面の支援に関する情報交換を行っております。今後、外国人同士のコミュニティ形成に向けた取組みを進めると同時に、阿蘇市の住みやすさと魅力を発信していきたいと思っております。



多文化共生の取組み（野焼きボランティア）

# 区未加入市民に対し、広報誌の無料配布を



竹原 祐一

**竹原** 阿蘇市の世帯数約1万1千世帯、このうち区に加入している世帯数は。

**和田総務課長** 住民基本台帳上は約1万1千世帯ですが、区長便としての配布戸数は約9千世帯であり2千世帯程度は区に加入されていないと思われま。

**竹原** 区長報酬の支払いはどの様になっていくのか。

**総務課長** 基本年額10万円と配布戸数に毎月200円を乗じた額を年4回6・9・12・3月に支払っています。令和4年度は区長報酬費として3358万円を支出しています。

**竹原** 区（自治会）に加入していない残り約2千世帯の方の手元には市の広報誌は届いているのか。

**総務課長** 行政区によっては、区に加入していない世帯には、配布をしていないところもありますのでその対応として、コンビニや公共施設等市内各所に広報誌の備え置きをおこなっています。

**竹原** 市税を払いながら、区に加

入していないため、市からの情報が入らないのはおかしいのではないかと。

**総務課長** 基本的には区への加入をお願いし、区加入のメリットをしっかりと伝えていきます。市としては、現在市外の希望者には、広報誌を有料にて郵送しており、未加入世帯への郵送もその対象に加えるか検討中です。

**竹原** 有料という事だが、区長報酬年額一世帯2400円で区未加入市民に配布する事は可能ではないかと。

**総務課長** 行政が何でも無料すると、区から抜けられる方も多小なりと出てくる可能性があります。あくまで無料でお届けすることは難しいところと。

他に「給食費徴収について」の質問がありました。



市外希望者へ郵送される広報誌（有料）

# GIGAスクール構想と対策は



杉谷 保信

**杉谷** GIGAスクール構想によって小中学校に整備されたタブレット端末の普及率は。

**藤井教育課長** 阿蘇市の普及率は100パーセントです。

**杉谷** 授業でのタブレット端末の使用状況として、1人1台の端末を毎日使用している学校の割合は。

**教育課長** すべての学校でタブレット端末を使った授業が行われています。日経新聞のグループ会社が独自に行った教育とICTに係るランキングでは、小学校の部で全国3位、中学校の部で全国9位、九州内では小中学校ともに1位の結果で情報化の度合いは非常に高いと評価されています。

**杉谷** 児童生徒自身が自ら調べ考えをまとめ、発表や表現をする場面はあるか。

**教育課長** 授業中にそのような場面は非常に多くあります。学用品同様、必要な時にタブレット端末を用いて主体的に深い学びとなる授業に取り組んでいます。



GIGA スクールのイメージ

**杉谷** タブレット端末を使って教職員と生徒、または生徒同士のやり取りはできるのか。

**教育課長** 先生と生徒や、生徒同士での直接のやり取りはありませんが、情報を共有して学習を行っているほか、健康観察等で活用しています。

また、持ち帰ることも可能でありほとんどの生徒が家庭でも端末を使用した学習を行っています。

他に「視覚障がい者のための音声コードの利用促進について」の質問がありました。

# 農村公園あびか陸上競技場の日本陸上競技連盟の公認は



五嶋 義行

**五嶋** 阿蘇市は合併以前から内牧温泉等の宿泊施設と農村公園あびか等の体育施設を利用した「合宿の里づくり」を進めてきたが、あびかの陸上競技場が陸連の公認から外れたと聞いた。そのことが「合宿の里づくり」にどのように影響するか。またその理由と再取得への取組みは。

**藤井教育課長** 平成10年4月に陸上競技場の3種公認を受けて以降5年ごとに更新手続きを行っていました。今回、令和5年4月5日の期限を前に、更新を視野に2から3年をかけて検討をしたところ、3種の公認を受けるためには、2千万円程をかけ改修する必要があることが判明しました。これまで日本陸連公認の大会があびかでは開催されていないこともあり、公認取得のメリットデメリットを関係者で協議した結果更新を見送りました。

## 文化ホールの建設について

**五嶋** 文化ホール建設について3月議会での市長答弁に「合併協定

書の約束は無にできない」とあったが、その後の動きは。

**廣瀬企画財政課長** 合併協定の協議項目については、必要に応じ、所管課で検討している事業もあると思いますが、企画財政課では文化ホールに関する協議は行っていません。

**五嶋** 合併協定書の締結から約20年、市長はどのように考えるか。

**佐藤市長** 平成18年の意見書を尊重はしますが、その後の災害やコロナ禍による社会情勢等の変化により財政的にも不安定であることからすぐに着手できる状況にはありません。



農村公園あびか陸上競技場

# 小・中学校教員不足の現状は



園田 浩文

**園田** 9月1日現在、阿蘇市立小・中学校教員数は169名で、定員に対し9名の先生が不足しているが、教育委員会としての対応は。

**藤井教育課長** 教員不足にあることから、会計年度任用職員を、生活支援員・学習支援員・学校図書司書・日本語の学習支援員等として任用し配置しています。

**園田** 市全体の会計年度任用職員の現状は。  
**和田総務課長** 現在116名を任用しています。市職員全体の27.4%と高い比率になっており、特に教育課が多く63名を配置しています。

**園田** 教員不足により、若い先生方や会計年度任用職員にしわ寄せがきているように聞いている。無記名でのアンケートや聞き取り調査等を実施して、働き方改革の意見として反映させることはできないか。

**山口教育課長** 聞き取り調査のほかアンケート調査についても今後検討します。

## 阿蘇体育館の老朽箇所の把握と改修計画は

**園田** あらゆるスポーツ活動において、屋内外を問わず「熱中症対策」が第一にあげられている。特に子供たちのスポーツ大会では、冷房設備の必要性を訴える指導者も多い状況である。老朽化が進んでいる阿蘇体育館では、2階外壁からの漏水や冷房機能が低下している為、観覧席の荷物移動や、暑さ対策等はミスト付き扇風機で対応している。避難所にも指定されていることから早急な対策が必要ではないか。

**藤井教育課長** 阿蘇体育館は築39年が経過し設備の不具合が生じている中、特に空調においては熱中症の危険性も高く利用者の健康状態も心配されていますので、改修計画を進めていきます。



老朽化が進む阿蘇体育館の空調設備

# 波野高原やすらぎ交流館改修は



佐藤 菊男

**佐藤** 波野高原やすらぎ交流館のこれまでの改修状況は。

**秦観光課長** 屋根の防水改修、トイレやコインランドリーの更新、また今年度はフライヤー、スチームオーブン等厨房機器のリニューアルを計画し、合宿に必要なものの整備を進めます。

**佐藤** スポーツ合宿利用者や若者及び指定管理者からシャワー施設の設置のニーズがあがっているが把握しているか。

**観光課長** 把握しており、相談を受けています。

**佐藤** 行政として現場の要望を捉え、早期に対応されたい。また、地域住民や利用者の利便性の向上を図るため、やすらぎ交流館と波野総合グラウンドを一体化した、ワンストップで効率的な利用受付の取り組み及び、一体化した指定管理施設の枠組みの検討は。

**観光課長** 指定管理者への支援を考えています。

**藤井教育課長** 教育課と観光課、指定管理者も含め具体的な協議を進めます。

**廣瀬企画財政課長** 指定管理施設の枠組みについては、担当課の意見等を踏まえ、できる範囲で検討していきます。

## 火口東展望所の活用について

**佐藤** 旧マウントカー道路の整備による仙酔峡側にある阿蘇山火口東展望所を活用し、阿蘇ジオパークの中の荒涼とした溶岩地帯と、櫛尾岳山頂から見下ろす阿蘇谷の絶景を活かした、新たな観光ルートの開発について、環境省も巻き込んだのチャレンジは。

**秦観光課長** 素晴らしい景観であることは認識していますが、観光振興火山防災という相反する部分があります。道路整備には多額の予算も必要となることから、現状では困難ではありますが、意見はしっかり受け止めさせていただきます。



波野高原やすらぎ交流館

# 公民館設備、初盆名簿、河川改修等を問う



古木 孝宏

**古木** 市内の公民館分館にはエアコンが設置されていない。近年の猛暑の中で熱中症対策等として必要性があり早期の設置を望む。特に坂梨公民館は生涯学習、会議、合宿等多くの方々が利用されている。他の公民館分館も同様、早急に対応していただきたいが。

**藤井教育課長** 設置していない公民館分館が4箇所あります。使用頻度の高い坂梨公民館をはじめ設置を検討していきます。

**古木** 初盆名簿が区長会の決定で来年から配布廃止とのことだが、多くの市民の方々から名簿作成を存続してほしいなどの声を聞く。配布しないことになった経緯と、再度、作成を検討する機会はないか。

**和田総務課長** 個人情報保護法等もあり廃止決定と至りました。様々なご意見もいただいていますので、区長会にて報告したいと考えています。

**古木** 梅雨期の豪雨により、坂梨のNOK株式会社近くの河川が氾濫

し、流木等が流れ込むような被害があったが、その後の改修計画は。

**中本建設課長** 排水路の暗渠断面が途中から狭くなっているのが原因です。来年の梅雨前には改善できるように関係者と協議を進めていきます。

**古木** 今年8月、阿蘇市内の特別養護老人ホームで食事が10日間以上1日2食しか提供されておらず、虐待ではないかという情報提供があったが。

**小山ほけん課長** 市では、施設におけるクラスター感染の解消及び高齢利用者の安全確保を第一としてとられた一時的な措置であったことを確認しています。なお、県に確認したところ、とられた措置が適切かどうかは、施設個別の状況に応じて判断がなされるものとこのことでした。



坂梨公民館

# 買い物困難者等の解消に向けた「地域おこし協力隊」の活用を



菊池 勝秀

**菊池** 前回議会会で西部地区の買い物困難者等の解消に向けて質問したが、その後の検討・取組状況は。

**石松まちづくり課長** まずは、市の施設「ふれあい市場あかみず」の活用として、管理組合へ地元ニーズに合わせた日用品等の充実を依頼しました。また、宅配サービス等が可能な市内の事業者一覧を作成し配布する予定です。

**菊池** 今回は、「地域おこし協力隊」の制度を活用した移動販売を提言したい。国の交付金で隊員（販売者）を雇用でき、「人件費ゼロ」で買い物困難者等の解消ができる。例えば、平日の13時まで「ふれあい市場あかみず」に停車してスパーを運営。14時から西部地区に移動販売を行うてはどうか。

**まちづくり課長** まずはアンケート等でニーズを把握し実施を検討します。

**「店舗型ふるさと納税」の案内改善を**  
菊池 今年6月から道の駅等で寄

附を行い、その場で使用できる商品券（返礼品）を受け取れる寄付方式を導入したが、これまでの寄附件数と金額は。

**石松まちづくり課長** 6月が41件以降月1〜2件で、寄附総額88万8千円です。

**菊池** 道の駅阿蘇だが、残念ながらこの寄附制度の案内板が店舗内の左奥に設置され、小さくてわかりづらい。寄附が減っており、もっと大きな看板を作成し、店舗の出入口付近に設置してはどうか。

**まちづくり課長** 視覚的なアピールと設置場所を運営法人と協議して速やかに対応します。

他に「阿蘇市観光マップ案内板の赤水駅・内牧駅への設置について」の質問がありました。



店舗型ふるさと納税のPR看板

# 阿蘇市のふるさと納税の取組みは



大倉 幸也

**大倉** 阿蘇市のふるさと納税と返礼品において、他の市町との比較はまた、全国的にどのような返礼品が人気か。

## 石松まちづくり課長

全国でトップと言われているのが、宮崎県都城市で寄附額が195億円です。次いで北海道の紋別市が194億円、3番目が北海道根室市で176億円です。全国で1741の自治体が取組んでおり、阿蘇市は776位です。熊本県45自治体の中では高森町が25億円でトップ。次いで御船町が23億円、八代市が21億円、阿蘇市は2億円、17位になります。全国で人気の返礼品は、海産物や米になります。本市では、季節のお野菜セット、ベーコン、阿蘇の天然水などが人気のようです。

## 大倉

8月に、寄附額全国1位を誇る都城市の担当者を招き、勉強会を実施されたようだが、取組みの違いや参考になった点は。

## まちづくり課長

「都城市」という地名よりも、全国的に知名度のある「芋焼酎」を全面に押し出して宣

伝を行ったことや、事業者からの発意で協議会を立ち上げPRを行ったことが結果に繋がっていると思います。阿蘇市でもこのような取組みができないかと考えています。

## 大倉

隣の高森町は25億円とのことだが、阿蘇市の方が全国的に有名であると思う。もつと目標を高く持つて納税額アップに取組んでほしい。

## まちづくり課長

阿蘇でしか体験できないアクティビティや宿泊等事業者と一緒に商品開発に取組んでいきます。

他に「一の宮中学校武道場の結露防止工事について」の質問がありました。



ふるさと納税のPR

# 阿蘇駅周辺における今後の展望は



児玉 正孝

**児玉** 阿蘇の玄関口として古くから阿蘇駅周辺は発展してきたが、将来の位置づけは。

## 高木総務部長

阿蘇駅前には阿蘇市の要となる場所であり、道の駅整備等を着々と進めてきました。表玄関にふさわしいまちづくりとなるように、地域の方々の意見も含め財政状況等も見据えながら、計画を煮詰めていきます。

## 児玉

少子高齢化や転出者の増加により、商店街はほぼ無くなっていくのがこの地域の商工振興と地域振興に対しての施策は。

## 石松まちづくり課長

旧阿蘇町時代より進めてきた阿蘇駅周辺再開発によって、道の駅誘致や田園空間博物館総合案内所の整備を行いながら周辺地域の活性化を図ってきました。11月にはマリオットホテルが開業しますが、食事を伴わないホテルですので、周辺を回遊し飲食店等を利用していただくことで、地域の活性化に繋がることが期待しています。

**火口新見学エリアEゾーン開放を**  
**児玉** 現在の見学エリアBゾーンが火山ガスで閉鎖された時に限り新見学エリアEゾーンが開放されることになったが常時開放はできないのか。

## 高木総務部長

Eゾーンは常時立入禁止区域となっています。Bゾーンでの見学ができない時にEゾーンのガス濃度が基準値以下の場合に限って、万全の安全対策のもと見学が可能となるエリアです。これまで5年をかけて阿蘇火山防災協議会内の各機関との協議でやっとこぎ着けた取り決めであります。常時開放への意見があるのは承知していますが、あくまでも安全第一で進めていきます。



阿蘇駅前のロータリー